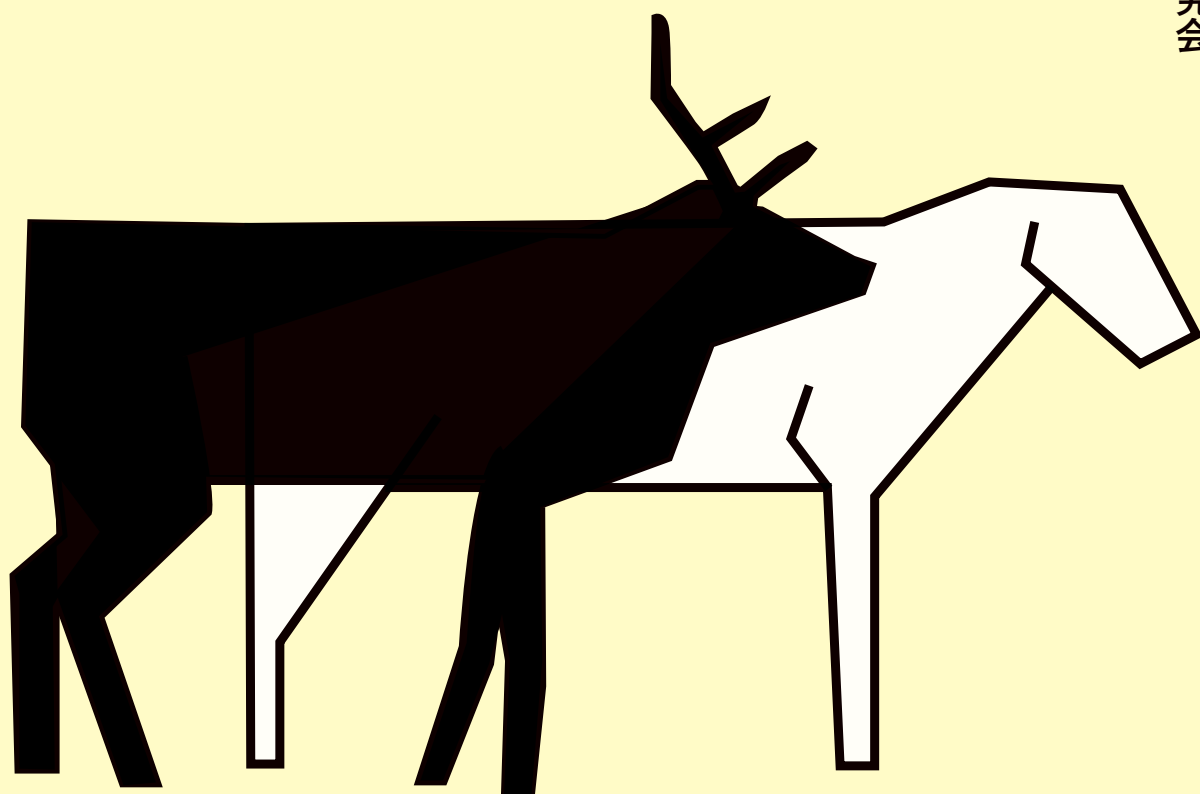


港千尋「感覚の方法―デザインと人類学の出会い」

「これからどうなるBankART」研究会

「BankART妻有2022」夏合宿



# BankART school

バンカートスクールは、横浜・馬車道に残る歴史的建造物を芸術文化に活用したBankART1929のプログラムのひとつとして、2004年4月に開校しました。と書いてから早18年。場所は「馬車道に残る歴史的建造物」から日本郵船の倉庫、関内の泰生ビルへと引越し、さらにBankART Station (新高島駅)、BankART KAIKO(馬車道駅)へと移転しましたが、中身は大して代わり映えしません。バンカートスクールの守備範囲は美術・演劇・写真・建築・音楽・ダンスなどアート全般におよび、講師は各ジャンルの第一線で活躍する人たちばかり。子供向けのワークショップから専門性の高い講座までレベルはさまざまですが、いずれも少人数制で、講師と受講者同士の親密な交流を重視する現代の寺子屋をめざしています。この18年の間に320講座、述べ1,100人の講師の方々をお招きしました。受講生は4歳のおじょうちゃんから85歳のおじいちゃんまで、述べ5,100人をこえます。ぶっちゃけ話、これらの講座をうけたところで即戦力にはならないし、なにか資格が得られるわけでもありません。受けるだけではなんの役にも立たないのです。むしろここから自分たちでなにを立ち上げていくのか、それが問われているのです。

(バンカートスクール校長 村田 真)

バンカートスクール

2022年5月ー8月 募集案内

水 19:30 - 21:00

## 港 千尋「感覚の方法—デザインと人類学の出会い」

①5/18 ②5/25 ③6/1 ④6/8  
⑤6/29 ⑥7/13 ⑦7/20 ⑧7/27

夏のある日、ニューヨーク州ウッドストックの森にあるホールで、不思議なコンサートが開かれました。集まった聴衆の前で、演奏者はおもむろにピアノの蓋を閉め、ストップウォッチのボタンを押したのです。聴衆の耳に入る雨の音は、自然は作曲家であり、世界は演奏会場そのものであることを教えてくれました。ジョン・ケージ作曲「4分33秒」初演からちょうど70年になる今年、この講座では、感覚を使うことで日常世界が、素材やテーマやアイデアに溢れた、創造の場になることを探りたいと思います。デザインと人類学の出会いが開くクリエイションの地平を写真、アニメーション、音楽からフードまで、幅広い分野を横断しながら探りたいと思います。



みなと・ちひろ | 写真家、映像人類学。イメージの発生と記憶などをテーマに制作、著述、国際展のディレクションと広範な活動をつづけている。「市民の色」で伊奈信夫賞(2006年)を受賞。写真集に『文字の母たち』『掌の縄文』など多数。『風景論—変貌する地球と日本の記憶』(中央公論新社)で2019年度日本写真協会賞受賞。最新刊に『写真論』(中央公論新社2022年)『武満徹、世界の「札幌の」』(インスクリプト2022年)など。写真集の近刊に『Across The Waters』(ABI+ P3)などがある。

料金: 12,000円\* (全8回) 定員: 16名

※初めての方のみ入学金+3,000円

木 19:30 - 21:00

## 「これからどうなるBankART」研究会

企画・コーディネート: 鈴木伸治、秋元康幸  
①6/30 ②7/7 ③7/14 ④7/21  
⑤7/28 ⑥8/18 ⑦8/25 ⑧9/1

BankARTの代表だった池田修さんが急逝した。これからBankARTはどうなるのか? 横浜の創造都市政策は、BankARTと共に始まり、約20年が経とうとしている。創造界隈拠点として、名実ともに創造都市をけん引してきたのがBankARTであり池田修さんである。彼から教わったことはたくさんあるし、今後もBankARTの活動は続けるべきだ。本企画は、BankARTの「これまで」を確認し、その思いをリレーしていくために、「これから」を参加者全員で考えたい。この大きな損失を埋め、さらに前進するため、それぞれの思いの中にあるBankARTをそれぞれが実行することが大事である。



これからどうするBankART?

- ① 6/30 「都市デザインから創造都市へ」  
鈴木伸治、梶山祐実、加藤種男、藤原徹平
- ② 7/7 「創造都市の交流拠点としてのBankART」  
吉本光宏、日沼禎子、中村政人
- ③ 7/14 「クリエイターの誘致、定着、ネットワーク」  
杉崎栄介、伊藤康文、吉田有里、永田賢一郎
- ④ 7/21 「創造界隈拠点としてのBankARTのミッション」  
細淵太麻紀、倉持知子、恵良隆二、櫻井淳
- ⑤ 7/28 グループディスカッション
- ⑥ 8/18 中間発表会
- ⑦ 8/25 グループディスカッション
- ⑧ 9/1 最終発表会

料金: 6,000円\* (全8回) 定員: 40名

## BankART 妻有2022 夏合宿

今年も「越後妻有 大地の芸術祭」開催に伴い、7月30日~9月4日(火水休み)の間、「BankART 妻有」をオープンします。それにあわせて、BankART Schoolでは5日間の夏の妻有合宿を行います。合宿はゼミと作品鑑賞ツアーが含まれます。初日は11時「まつだい」駅集合です。奮ってご参加ください。



A: 8/4 [木] ~ 8 [月]

### 村田 真「越後妻有プラスワン」

最初に「大地の芸術祭」の作品を見ていただき、その中でインスピレーションを受けた作品を自分なりに咀嚼し、解体し、再構築し、作品化していただきます。絵でも写真でも立体でも文章でも可。越後妻有の大地に1点加えてください。むらた・まこと | 美術ジャーナリスト、画家。実践女子大学非常勤講師、BankARTスクール校長も務める。

B: 8/11 [木] ~ 15 [月]

### 開発好明「狭間、隙間、間についての1,2,3」

滞在中や移動中に、3つの「間」について考え、実践するワークショップ。  
狭間: 滞在先の場所を使い、参加者が現地で見つけたり買った物を使って作品作り。  
隙間: 小さな場所や空間を使って埋め合わせる作品作り。  
間: 物ではなく、時間を捉えた作品作り。  
かいはつ・よしあき | 1966年山梨県出身。1993年多摩美術大学大学院修了。2004年ヴェネチア・ビエンナーレ第9回国際建築展日本館「おたく: 人格=空間=都市」出品。

料金: 45,000円 [各ゼミ参加費、芸術祭見学ツアー(芸術祭チケット含)、宿泊費(BankART 妻有)、4泊5日の飲食代]  
定員: 6名

## マンスリー講座 各回参加 2,000円/回(定員15名)

火 19:30 - 21:00

### 「ヨコハマみなとみらい物語III」

「みなとみらい」新高島地区および馬車道地区は、近年稀に見る速さで変貌を遂げ、「街づくりへの意志」を辛抱強くリレーしてきた官(都市整備局)と民(企業)とのコラボレーションの象徴として、具体的な姿を現しつつあります。このゼミでは、この街がどういった仕組みで構想されてきたのか? あるいはどういった方向に向かっていくのか? を、毎回ゲストを迎えてお話を伺いながら、みらいの「みなとみらい物語」を探っていきます。

- 5/10 横浜北仲エリアマネジメント | 高島和臣Ⓚ
- 6/21 泉陽興業株式会社(ヨコハマエアキャビン) | 船田昌宏Ⓚ
- 6/28 清水建設㈱ | 熊澤卓哉、富田文悟Ⓞ
- 7/12 高島中央公園愛護会 | 松本道雄Ⓞ
- 7/26 横浜市文化観光局Ⓞ

会場= Ⓚ: BankART KAIKO

Ⓞ: BankART Station

火 19:30 - 21:00

### 北島敬三「写真の教え」

現在開催中の講座の最終回は、北島氏の個展開催期間にあたります。最終回は公開講座としてゲストを招いて開催します。

9/6 公開講座ゲスト

倉石信乃 [批評家・明治大学理工学研究所総合芸術系教授]

金 19:30 - 21:00

### シュウゾウ・アツチ・ガリバー

#### 「作品を語る」

「消息の将来(仮題)」を、2022年10月に開催します。展覧会で核となる約12点の作品を作家が語るるとともに各回ゲストを招いて作家や作品、その活動を紹介する講座を開催します。

6/3 山本淳夫 [横尾忠則現代美術館 館長補佐兼学芸課長]

6/24 西川美穂子 [東京都現代美術館 学芸員]

## BankART schoolの概要

時間 = 19:30~21:00

会場 = BankART Station、BankART KAIKO

### お申し込み方法

- ①受講したい講座名 ②お名前 ③住所
- ④電話番号 ⑤メールアドレスを、メール・電話のいずれかにてお知らせください。

※一旦納入された受講料は返金できません。

※講座によっては別途材料費・資料代がかかる場合があります。

※申し込み受付は定員になり次第、終了させていただきます。

### アクセス

#### BankART Station

横浜市西区みなとみらい5-1

みなとみらい線「新高島駅」地下1階

#### BankART KAIKO

横浜市中区北仲通5-57-2-1F

みなとみらい線「馬車道駅」2a出口直結徒歩1分

### お申し込み・お問い合わせ

BankARTスクール事務局

school@bankart1929.com

TEL 045-663-2812